



82.9.9

No. 1142

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇五三(22)七二〇七

(9月7日)

# 「検査分科」と「検修分科」の合同にむけて臨時委員会を開く

## 新分科会(「検査・検修分科会」)を9月22日結成する事を確認

五七・一「ダイ」改、検修下廻り合理化攻撃が迫りくる中で、検査分科・検修分科はそれぞれ千葉本部において九月七日に臨時委員会を開催し、合同にむけた方向を確認し、新分科会結成にむけた一層の体制強化と、今日、国鉄労働者向けられている第二臨調を中心とした権力・当局・マスコミ一体となった国鉄労働運動解体攻撃に全力で対決していく方針もあわせて確認、決定をいたしました。

### 一年間にわたって討議の深度化をはかる

検査分科・検修分科の合同については、昨年の第六回定期大会において組織体制の強化をはかることを目的として、組織・財政検討委員会に諮問を行ってまいりました。これをうけて組織・財政検討委員会は、権力・国鉄当局の全面的な組織解体攻撃としての検修下廻り合理化に、検査・検修組合員が、団結して立ち向うべきであるとの方針が答申されました。この答申に基づいて全支部検査・検修合同会議や、各支部の検査・検修合同集会を積み重ね、合同にむけて意志一致をはかってきました。

### 敵の攻撃の具体的パート

今次の検修下廻り攻撃は、五七・一「ダイ」改と一体となった攻撃であり、具体的にはECの台車検査、DL・DCの交番検査A・B及び仕業検査、臨時検査、附帯的作業を外注化するものであります。この攻撃は、現在の検修体制を根本的に解体するものであり、絶対に粉碎しなければなりません。

### 職場抵抗闘争を基礎に敵の攻撃を粉碎しよう

一方こうした国鉄当局の攻撃に対して、幕張・佐倉・津田沼三支部は、すでに八月八日に検査・検修合同会議を開き、職場抵抗闘争を長期強じんねばり強く進めていくことを確認し、現在闘い抜いている渦中にあります。このような状況下で国鉄当局は、九月十一日に下廻りの労働条件について「提案」をおこなおうとしています。

### 臨時委員会方針を確認・決定

検査・検修分科会は、今日までの闘いの経緯にふまえ、組織強化に向けて新分科会を結成し、体制の強化をしていくことを確認、次の三点を取り

組んでいくことを決定しました。

一 新分科会結成のための準備委員は五名とします。

二 分科会は一切の財産は、新分科会に移譲します。

三 新分科会の発足は、九月二十日を目途とします。

### 結成へむけ、一歩前進

新分科会結成のための取り組みが決定されたことをうけて、午後ただちに、双方から選出された五名づつの準備委員により、第一回の準備委員会が開催された。

第一回準備委員会は、準備委員長に斎藤常男氏(幕張支部)・準備副委員長に高田興治氏(勝浦支部)・鈴木日出夫氏(佐倉支部)が、また事務長には林熊吉氏(本部特執)が選出され、結成へ向けた体制が決定しました。さらに準備委員会は当面の運動方針と規約の整備をはかり、九月二二日に検査・検修合同の結成委員会を開催することもあわせて決定し、名称を「検査・検修分科会」(略称、検修分科会)とすることを答申しました。結成準備委員会は以上のことを決め、五七・一「ダイ」改「検修下廻り外注化の合理化攻撃をむかえうつ体制を早急にはかっていくことを確認し終了しました。

### 当面するスケジュール

- 9月11日 第五回青年部定期委員会
- 16日 第十一回「組合費」公判
- 17〜18日 第五回乗務員分科定期委員会
- 21日 第十回「6・12デッチあげ事件」公判
- 22日 「検査・検修分科会」結成委員会
- 30〜10月1日 動力千葉第七回定期大会
- 10月11日 三里塚全国総決起集会

訂正とおわび：『日刊』第一三三八号(9月4日付)表面のタテ見出し中「成田駅での酔客による暴行事件」の日付が、一部誤って印刷されたものがありました。その正しい日付は「3月21日」ですので、おわびして訂正いたします。